

2019 年度第 3 回外洋常任委員会
議事録

日 時 : 2019 年 11 月 29 日(金) 18:30-20:30

場 所 : トーヨーアサノ会議室(新宿区新宿 5-13-9 太平洋不動産新宿ビル6F)

出席者 : (理事)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務、平松隆、菊池邦仁、橘田佳音利
新田肇、宇都光伸、作田智恵子

(委員会)

ルール委員会外洋規則小委員会委員長 大村雅一

外洋計測委員会委員長 八木 達郎

国際委員会外洋小委員会委員 鈴木一行

外洋安全委員会委員長 大坪 明

キールボート委員会委員長 金子純代

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫

(オブザーバー)

オリンピック外洋小委員会 服部好彦

(順不同、敬称略) 計 16 名

議長 常務理事 坂谷 定生

記録 事務局 鈴木 保夫

I. 挨拶

馬場副会長より、「月末の忙しいところ、遠方よりお集り頂きありがとうございます。本日の議は6つある、活発にご審議をお願いします。」との挨拶があり、その後議長として坂谷常務理事が指名され、議事に入った。

II. 議事

1. 2020 世界選手権について(現状報告と今後の進め方)

坂谷:本日オリンピック小委員会を開催したがなかなか難しい。

鈴木(一):名称が「ミックスダブルハンド」から「ミックス ツー パーソン」に変更となった。

10 月 14 日にアンディー・ハントが突然退任し、公示が止められており不安定な状況となっている。

2020 年のフランス開催に間に合うかどうかギリギリの状況。

艇種は L30 で決定した。

今後は JSAF 事務局に情報が入ってくることになる。

マルタ島で開催されたレースでは乗員の 30%がサバイバルトレーニングを受けなければならないことになっていた。

坂谷:公示が出ていないので、今日のオリンピック小委員会では具体的に協議できなかった。

エントリー費を振り込まなければ先に進まないの、必要であればエントリー費を予算化する。

馬場:まだ決まっていないが日本としてはエントリーしたい、エントリー費は€2,500 掛かる。

2. サバイバルトレーニングについて

大坪: JORA からコンタクトがあり児玉 JORA 理事と 2 回会った。JORA が今後開催しようとしているトレーニングを認定コースとして欲しいと要望を受けた。

認定の基準がないので、団体に出すのか個人に出すのか、児玉氏には 1 年と答えたが今後半年から 1 年かけて委員会で作成していく。

9 月に JORA が福岡で、とパラオレース実行委員会がベイサイドマリーナで開催した。内容が少し違っている。

ちなみに、トランスパックは US セーリングのシーセミナーを受講すれば良い。

鈴木(一): 「ミックス ツー パーソン」もあるので早いうちに決めて欲しい。

3. パラオ国際親善レースの近況について

新田: 国交省は過去のグアムレースの事故を理由に後援を断ってきた。

11 月 12 日にパレスホテルでパラオ政府主催の独立 25 周年祝賀会が開催され、馬場副会長も出席した。

会場ではこのレースが注目された。

4 年ごとに開催することにした。

レースの参加艇は 7 艇。レース前日の 28 日にパラオの子供達を招待して、日本の子供達と OP ディンギーのレースを行う。日本の子供達が勝たないように、日本の選手は初心者を選ぶ。

JAMSTEC と協働でマイクロプラスチックの採取を行う。

八木: OSR の認定はどのように行うのか?

新田: 川合氏と安藤氏が行う。

平松: ペットボトルの持ち込みは制限するのか?

新田: 制限はしない。

レース参加の個人には参加賞を艇には完走賞を出したいと考えている。

4. オリンピック応援フラッグリレー2020 について

坂谷: 前の報告より進展はない。まだ日本海側の一部が繋がっていない。

江ノ島に会場から持ち込むのは難しいので、場合によっては東京に持ち込む案等、最終的にどのような形でフィニッシュするか大村さんに調整してもらっている。

5. ジャパンカップ 2020 について

馬場: ロングオフショアをパールレースとする案がある。日程等で関係者と協議する必要があるので、協議がうまくいけば公表する。

坂谷: ジャパンカップに関係なく、オリンピックを意識して「ミックス ツー パーソン」レースにつながっていくように、パールのダブルハンドは「ミックス ツー パーソン」とする方向で考えている。

6. 2020・2021 年度理事選挙について。

大村: 理事選出のスケジュールは資料の通り、評議員も改選になる。

評議員は水域理事が纏めることになる。

7. その他

鈴木(一):東京海洋大学と協力して作成する教材を2020年から配布する予定で進めている。
マイクロプラスチックの採取網が5セットあるので貸出を進める。

安全を犠牲にすることなく、ペットボトルの船内持ち込み最小化など少しずつ進めていきたい。

坂谷:高槻氏から、電車の「撮り鉄」のように、例えば「海撮り」のようにネーミングして写真を撮り、
オンブリーズからユーチューブにリンクさせれば経費は掛からない。との提案があった。

馬場:ビジョン検討委員会に外洋から意見が出ていない。

委員からはぜひ意見を出して欲しい。

坂谷:紹介が遅れたが、本会議に出席している服部氏にオリンピック外洋小委員会の委員になって頂
いた。

鈴木(一):小林氏が欠席なので、換わってWS ORCの年次総会の報告をする。

10月27日から11月1日まで、バミューダで開催されたWSの年次総会に出席した。

スペシャルレギュレーションサブコミッティーでは資料の通りいくつかの変更提案がなされた。

IRCの証書発行数はブラジルとオーストラリアは増加しているが、2019年8月末時点では4,497隻で
前年から67隻減少している。日本では1隻減の264隻となっている。

米国で使用されているORRは、資金面で問題が発生しているとの噂があるが、問題なく継続されてい
るようである。

ORCコンGRESSでは、2019年9月末の証書の発行枚数が9,500隻となっている。

日本の発行枚数は50隻となっている。

坂谷:JCIから「調査研究テーマの募集」が来ているので安全委員会に提案して欲しい。

橘田:注目を浴びる選手にスタイリストをつける案を提案したが、来年7月にオリンピック準備委員会
が負担して実施することになった。

平松:ワールドカップの表彰式にメイクをつけた方が良いと思う。

橘田:提案する。

馬場:オリンピックの翌年、2021年にワールドマスターゲームが和歌山で開催されるのでぜひ参加して
欲しい。

以上